



# だいの風

日高市立武蔵台小中学校

令和6年1月9日 第16号

今年度のキーワード「対話・創造・挑戦」

学校教育目標

- 自立 かんがえる子・じょうぶな子
- 創造 かんどうする子
- 共生 なかよくする子



「新年の挨拶に代えて」

秋馬 信之

新年を迎えた1月1日（月）午後4時10頃、石川県能登地方を震源とする最大震度7を記録する強い地震がありました。この地震によって亡くなられた方々に深く哀悼の意を表すとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

家族団らんとなるはずだった新年、大地震によってその景色が一変しました。

一夜明け被害の状況が明らかになると、そこには、倒壊した無数の家屋、大火に襲われ焼け野原になった輪島の朝市、沿岸を襲った津波、目を覆いたくなる光景がありました。言葉になりません……。

今なお、多くの方々が余震の不安を抱えながら避難生活を余儀なくされている。北陸の冬は雪に覆われ、寒くて辛い。救援物資を避難先に届けたいが道路は土砂でふさがり、交通が遮断され孤立した地域があるといいます。胸が痛みます。何か我々として手助けできることはないだろうか……。

最後になりましたが、保護者・地域の皆様、旧年中は本校の教育活動に対しまして、温かいご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございました。今年も教職員一同、「たくましく未来を切り拓き一步上を目指す台っ子」「地域に愛され、未来に向かってともに学びをつくる学校」を目指し、全力で教育活動に邁進しますのでよろしくお願い致します。

**大きな目標を達成するには小さな目標の積み重ね 目標をもつとやるべきことが明確になる**

今年も箱根駅伝が行われ、青山学院大学が総合優勝を果たしました。下馬評では駒澤大学が圧勝と言われていましたが、見事それを覆して圧倒的な強さで総合優勝を果たした選手諸君に「あっぱれ」と言いたいです。

実は3日（水）は所用で東京に出かけ、時間があつたので10区20km付近で選手たちの走りを間近で見ました。選手たちは歯を食いしばり、鬼の形相で懸命に走っていました。優勝を飾り、笑顔を振りまいてテレビ出演している選手の顔ではありません……。まさに鬼の形相そのものです。その姿を見て、彼らは優勝を目指し「毎日コツコツと厳しい練習を積み重ねてきたのだ」としみじみと思うと同時に、私はある言葉を思い出しました。それは、私が中学生のときにテレビコマーシャルで流れた、あるマラソン選手の言葉です。そのマラソン選手は君原健二さんという方です。君原さんは1964年の東京オリンピック8位入賞、その4年後のメキシコオリンピックで銀メダル、そして1972年のミュンヘンオリンピックで5位入賞を果たした方です。

君原選手の言葉。「私は苦しくなると、よくやめたくなるのです。そんな時、あの街角まで、あの電柱まで、あと100mだけ走ろう。そう自分に言い聞かせて走るんです」……。きっと箱根駅伝を走ったランナー諸君も、君原さんと同じ気持ちで20kmという道のりを、母校の襷を胸に歯を食いしばって走ったのではないのでしょうか。

人間というのは、苦しいことや辛いことがあると逃げ出したくなるものです。そんなとき、君原さんの言葉を思い出し、「あの街角まで」「あの電柱まで」という気持ちで、一つ一つ小さな目標を積み重ねて行ってほしいと思います。大きな目標達成には小さな目標の積み重ねです！

## 家庭学習の充実に向けて

### ①自宅学習システムの更なる活用を②家庭学習ノートの充実を③学習時間の確保を

eライブラリ（自宅学習システム）を活用しているでしょうか。このeライブラリは、近隣の自治体では導入しておらず、日高市では子どもたちの学習習慣をつけることや学力向上を目指し平成29年度から運用を行っています。eライブラリはWi-Fi環境にあれば、1年生（小1）から9年生（中3）までのドリル教材（国語・算数・数学・理科・社会・英語）等を学力や学習の進度など、個々のニーズに応じて自宅で学習ができるので、家庭学習の充実を図るうえでの重要なツールといえます。

しかし、ここで押さえておきたいことは、自宅学習システムは、あくまでも「毎日の家庭学習の補助」であるということです。大切なことは毎日の地道な家庭学習、自学自習したことを「ノートに書く」ことです。学習したことをしっかりノートに書く習慣をつけてください。

#### 【家庭学習：ノートに書くことのメリット】

- ・ノートに書くことで、思考の曖昧なものが明確になる。
- ・ノートに書くことで、思考を整理し構成力を鍛えられる。
- ・ノートはいつまでも、振り返ることができ定着を促す。
- ・ノート学習を積み重ねていくことで、学習の足跡が残り満足感を得ることができ、学習意欲につながる。



また学力向上は「学習の量」×「学習の質」といっても過言ではありません。学力向上が学習の量と学習の質の積だとすれば、一定の学習量は必須です。当然、一方が「ゼロ」であれば、その積も「ゼロ」になりますが、学習の質が同じであれば、学習量が多いほど、当然学力向上に効果があるわけです。右図は

令和5年度埼玉県学力・学習状況調査「生徒質問紙」からの抜粋のもので、本校児童生徒の「土曜日や日曜日など学校が休みの日に1日あたりの勉強時間が1時間以内・全くしない割合」です。これを見ますと、後期課程は県平均より低く「約8割の生徒は休日でも1時間以上勉強している」ことがわかります。一方、前期課程は4年生から6年生の児童の半数以上が、「勉強時間が1時間以内または全く勉強をしていない」結果となっています。学習の質はもちろん重要ですが、まずは、学習時間を一定量確保する必要があります。また、以前実施した全国学力・学習状況調査のクロス集計では、学習時間が短い子どもに比べ、長い子どもはそれぞれのテストの平均正答率が高い傾向にあると結果が出ていました。

勉強が分からないより分かる方がいいし、できないことが多いよりもできることが多い方が当然いい。できるようになるには、やはり地道にコツコツ勉強をするしかないのです。その為にも学習時間の確保が重要です。児童生徒の皆さん、まずは家庭学習を一日の生活の中でルーティーン化し学習習慣をつけましょう。保護者の皆様、今後も家庭学習の充実に向けて指導していきますので、ご家庭におかれましてもご理解・ご協力をお願いします。

土曜日や日曜日など学校が休みの日に1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教えてもらっている時間含む）  
<R5埼玉県学力・学習状況調査より：1時間より少ない・全くしない割合>

	4年	5年	6年	7年	8年	9年
県	42.1	39	40.9	27.7	30.4	26
本校	51.3	63.6	54.2	20	15.7	24.3
比較	9.2	24.6	13.3	△7.7	△14.7	△1.7